

令和3年度 つくばサイエンス・アカデミー事業計画（案）

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更・延期等の可能性があります。

1 事業方針

研究者相互の交流と知の触発による先駆的新産業領域の創造、研究成果の産業化、科学の啓発などを目的として、研究開発奨励、研究交流促進、研究産業交流などの事業を実施し、もって科学の振興に寄与する。

2 研究開発奨励事業

○「江崎玲於奈賞」「つくば賞」等の顕彰事業

国内又は県内に於いて世界的に評価を受ける顕著な研究成果を収めた研究者に「江崎玲於奈賞」「つくば賞」「つくば奨励賞」の各賞を授与するとともに、授賞式及び受賞者講演会を実施する。

授賞者の決定 令和3年9月上旬(予定)

日 程：令和3年秋

会 場：つくば国際会議場

3 研究交流促進事業

○SATフォーラム

会員やその家族、一般の参加も広く呼びかけ、最先端の研究や話題の研究を行っている研究者、著名な研究者を招いてフォーラムを開催する。

日 程：令和3年度秋以降(予定)

場 所：つくば国際会議場

講 師：京都大学大学院医学研究科教授

2018年ノーベル生理学・医学賞受賞 本庶 佑 氏(予定:未調整)

○SATつくばスタイル交流会

広く会員以外の方にも参加を募り、サイエンス&アートをテーマに、講演会と音楽鑑賞会などを組み合わせた交流会を開催し、SATの周知と市民との交流を促進する。

日 程：令和3年度秋以降(予定)

場 所：つくば国際会議場

講 師：産業技術総合研究所 触媒化学融合研究センター センター長/
アカデミー運営会議委員 佐藤 一彦 氏

アートの部：チェロ&フルートのリサイタル(予定:未調整)

○賛助会員交流会

技術開発に熱心に取り組んでいる賛助会員企業の事業紹介や、つくばの研究者の研究紹介を通して、企業と研究者が交流することにより、それぞれのニーズ・シーズを確認し、新しい「知の触発」に繋げる。(年2回開催予定)

○研究情報交換会

研究者の新しい発想につなげるため、毎回テーマを決めて2～3人の研究者による研究状況報告と参加者との意見交換などを行う分野横断的な小規模交流会を年に2回程度開催する。

○SATサイエンス・カフェ

研究者や一般市民を対象に、特定のテーマで気軽に意見交換できるアカデミーならではのサイエンス・カフェを年に2回程度開催し、研究者と一般市民との交流を通じて一般市民に科学の楽しさを知って頂くとともに、SATの認知度を高める。

○つくば科学・技術産業イニシアティブの共催

「つくば科学・技術産業イニシアティブ」を科学・技術産業イニシアティブとの共催により月1回程度開催し、異分野交流の強化・拡充に務める。

4 研究産業交流事業

○テクノロジー・ショーケース

つくばの各研究機関等と連携して、様々な分野の研究者による研究発表を通じて研究者と企業との交流を深め、知の触発による研究内容の向上、研究成果の実用化、ビジネス化を促進する。

日 程 : 令和4年1月(予定)

会 場 : つくば国際会議場又はオンライン

協力機関 : 防災科学技術研究所

プログラム(例)

- ・ポスター発表
- ・特別講演
- ・企画展示、共催機関広報展示 等

5 会員の加入促進について

若手研究者にも魅力のある事業を展開することにより会員の加入促進に努める。

6 広報活動

- ・会誌の発行(20周年特別号、通常号2回)・賛助会員の紹介
- ・ホームページの運営 (<https://www.science-academy.jp/>)

令和３年度 つくばサイエンス・アカデミー収支予算(案)

(単位：千円)

項 目	R 3 当初(a)	R 2 当初(b)	増減額(a-b)
事業活動収入			
補助金等(茨城県から)	6,200	5,899	301
負担金(テクノロジー・ショーケース)	3,440	3,440	0
会費	4,653	4,890	△ 237
賛助会員	3,750	3,900	△ 150
個人会員	903	990	△ 87
雑収入(参加費等)	310	150	160
参加費等	150	150	0
受取利息			0
他会計からの繰入金	2,796	4,219	△ 1,423
当 期 収 入 合 計	17,399	18,598	△ 1,199
事業活動支出			
研究・交流促進事業	12,639	11,992	647
給料、賃金	10,020	10,099	△ 79
福利厚生費	60	60	0
旅費	100	80	20
通信運搬費	84	200	△ 116
消耗品費	80	40	40
会議費	345	275	70
食糧費	7	10	△ 3
印刷製本費	50	100	△ 50
賃借料	470	380	90
諸謝金	710	220	490
負担金	88	88	0
広告宣伝費	590	420	170
手数料	25	0	25
雑支出	10	20	△ 10
テクノロジー・ショーケース運営事業	4,760	4,629	131
給料、賃金	500	360	140
旅費	20	20	0
通信運搬費	75	56	19
消耗品	20	20	0
会議費	132	160	△ 28
食糧費	300	300	0
賃借料	1,200	1,200	0
広告宣伝費	310	310	0
委託費	2,200	2,200	0
租税公課	1	1	0
雑支出	2	2	0
20周年記念事業	0	1,977	△ 1,977
旅費	0	165	△ 165
通信運搬費	0	50	△ 50
消耗品	0	15	△ 15
会議費	0	90	△ 90
食糧費	0	500	△ 500
賃借料	0	300	△ 300
諸謝金	0	520	△ 520
広告宣伝費	0	300	△ 300
手数料	0	35	△ 35
雑支出	0	2	△ 2
当 期 支 出 合 計	17,399	18,598	△ 1,199
当 期 収 支 差 額	0	0	0

※主な増減について

新型コロナの感染前のように事業が実施できるよう予算計上している。

収入 ・ 20周年記念事業分の減少に伴い、他会計からの繰入金が増加した。

支出 ・ 20周年記念事業分の減少に伴い減となるが、昨年度は20周年記念事業で実施する予定であった講演を、SATフォーラムとして実施予定としているため、研究交流促進事業が増加している。

・ ショーケースは対面で開催できるよう計上している。